

ラトビア月報

【2013年3月】



2013年（平成25年）4月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【内政】

- ・マティース新運輸大臣が就任
- ・統一地方選挙の議員定数が決定

【経済】

- ・政府はユーロ導入に向けた収斂報告書を要求
- ・2012年のGDP成長率は5.6%
- ・2012年のラトビアの貿易高伸び率（16%）はEU第2位

【外交】

- ・EUマリ訓練ミッションへの要員派遣を国会が承認
- ・ベルズィンシュ大統領がウクライナを公式訪問
- ・ラトビア外務省は、北朝鮮の行動を強く非難する声明を発表

【日本との関係】

- ・「世界女子カーリング選手権2013」の開催
- ・日本語スピーチ・コンテストの開催
- ・ラトビア・サッカーリーグの新シーズン開幕

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたものです。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。但し、「在ラトビア日本大使館作成の資料によれば」といった引用は避けていただくようお願いいたします。

【内政】

◆マティース新運輸相の就任

1日、国会で、与党「統一」が新運輸大臣に推薦したマティース運輸次官の信任投票が行われた。その結果、73票（国会は100議席）の信任票を獲得し、同次官が運輸大臣に就任した。

◆地方選挙の議員定数は1,618人

7日、中央選挙管理委員会は、本年6月1日（土）に予定されている統一地方選挙（全119選挙区）の総議員定数は1,618人であると発表した。首都リガ市が60であり、他の地方自治体については、人口規模により9～17と定められている。

◆国内大学でのロシア語による教育課程を提案

8日、教育科学省は、ラトビア国内の大学で、EU公用語ではない言語による教育課程を導入する法案を政府に提案した。同法案はロシア語を念頭に置いたもので、新法が施行されれば、学内定期試験のみならず、学士・修士論文のロシア語での提出も認められることとなる。

◆ドンブロウスキス首相が欧州人民党の欧州委員長候補となる可能性

14日、シャドウスキス欧州議員（ラトビア選出）は、ドンブロウスキス首相が、欧州人民党の次期欧州委員長候補になる可能性があることに言及した。同議員によると、ドンブロウスキス首相は、国内経済改革で実績があり、EU内の小国出身で、さらに政治的に南欧諸国から拒否反応を受けないことから、委員長候補になり得るとした。欧州議会第一党である欧州人民党は今秋にも候補者を選定する見通し。現在、2期目のバローゾ委員長が3選（任期5年）される可能性もあるが、ドイツの主要紙も次期欧州委員長候補としてドンブロウスキス首相の名前を挙げたことがある。

◆コズロウスキス内相に対する辞任要求

ラトビアでは、毎年3月16日、1943年にナチス・ドイツ軍により結成されたラトビア人部隊（Latvian Waffen SS unit 又は Latvian Legionnaires）がソ連による占領に抵抗し、ラトビアが自由を獲得するためにナチス・ドイツ軍の一員として独ソ戦を戦ったことを記念する非公式の行事や集会在、退役軍人グループや市民の間で開催される。

今年の集会では、自由記念碑周辺でのナショナリストの集会が、反対勢力が大音量で流すロシア音楽によって妨害される事案が発生し、警察により4人が拘留された。連立与党を構成する「ナショナル・アライアンス」はこの事態を問題視し、警察組織を統轄するコズロウスキス内務大臣の辞任を求めることを決定し、野党「緑と農民連合」はこ

れに同調することを表明した。

7日、コズロウスキス内相は集会を妨害された市民に向け謝罪を表明したため、「ナショナル・アライアンス」は、3か月の試用期間を与えるとして、辞任要求を取り下げた。これを受け、25日に予定されていた国会での内相不信任決議案採決は中止となった。なお、親露系の最大野党「調和センター」は、同内相に対する不信任決議案には同調しないことを22日表明していた。

◆シベリア追放事件から64年

1949年3月25日から29日にかけて、9千家族、4万3千人ものラトビア人がソ連により突如シベリアに追放された事件から64年となる3月25日、政府主催の記念式典及び献花式が行われた。数日の間に人口の2.28%に相当するラトビア人が追放された同事件は、ラトビア近代史の中で最も悲劇的な日とされている。シベリア追放を経て多くの人命が失われたほか、スターリンの死後ラトビアに生還できた人々も、財産を奪われ、当局の監視下での生活を強いられるなどの状況が伝えられている。

◆地方自治体の自発的合併が可能に

27日、政府は、スプルージュス環境・地域開発大臣が提案した地方自治体の自発的合併を支援するための法改正提案を承認した。現行法では、自治体の自発的合併提案に対する法的枠組みは整備されておらず、各自治体は、自治体の合併と廃止を行うために国会に特別法の制定を求める必要がある。

【経済】

◆ラトビア政府がユーロ導入に向けた収斂報告書を要求

4日、政府は臨時閣議で欧州委員会と欧州中央銀行に対してユーロ導入に先立ちラトビアを評価する「収斂報告書」を要求することを決定した。収斂報告書の結果を踏まえ、6月以降、欧州理事会でラトビアのユーロ導入につき政治決定が行われる見通し。ラトビア政府は2014年1月1日のユーロ導入を目指している。

5日、ビルクス財務相はブリュッセルで行われたEU経済・財務理事会に出席した際、レーン欧州委員会副委員長（経済・通貨担当）に収斂報告書要求書を正式に手交した。

◆2012年のGDP成長率は5.6%

中央統計局の発表によれば、2012年のGDP成長率は5.6%で、貿易、製造、運輸、建設などの部門が牽引した。

◆ラトビアの貿易高伸び率はEU第2位

ユーロスタットにより、ラトビアの2012年の貿易高伸び率が対前年比でEU域内で2番目に高い16%を記録したことが明らかになった。EUで最も高い貿易高伸び率を記録したのはギリシャ（17%）で、ラトビア（16%）、リトアニア（14%）、スロバキア（10%）と続く。

◆ラトビアの廃棄物リサイクル率は低調

ユーロスタット（2011年実績）により、EU加盟国平均で25%の廃棄物がリサイクルされているが、ラトビアでのリサイクル率は10%と低調であったことが明らかになった。2011年、EU域内の全廃棄物のうち、37%が埋め立て、25%が焼却、25%がリサイクル、15%が肥料に転用されたが、ラトビアに限ると廃棄物の88%が埋め立て処理であった。

ラトビア人での国民一人当たりの廃棄物量は年間350キロで、これはEU平均の年間503キロよりもかなり少ない（エストニアは298キロ、リトアニアは441キロ）。

◆オートガスの販売が急増

2012年、ラトビアでのオートガス（自動車燃料）販売量は対前年比で53%も増加し、38,413トンに達した。オートガス販売量は、2010年に8%、2011年に27%それぞれ対前年比で増加していた。なお、3月7日現在のスタットオイル社小売価格は1リッター当たり0.418ラツツ（約0.594ユーロ）。

◆ラトビアの道路の評価は世界第99位

世界各国の道路の状態を判定した「World Economic Forum's Global Competitiveness Report for 2011-2012」によると、ラトビアの道路はモンテネグロ、タンザニア、ジンバブエ、ザンビア、セネガル、タジキスタンと同等の評価（3.2ポイント）で世界第99位であった。同レポートでは144か国が評価対象となっており、リトアニアは第32位、エストニアは第61位にランクされた。ラトビアは、EU加盟国では、ルーマニア（135位）、ブルガリア（129位）に次いで低い評価となった。

◆建設業界の状況

12日、中央統計局局長は、ラトビアの建設業界は2012年に14.6%もの成長を記録したが、未だ経済危機前の水準には回復していないと指摘し、また、同業界の好況は今後も続くとの見解を示した。建設業界は、2012年末時点で概ね2003年末時点と同じ水準にある。

◆石油パイプラインの他用途への活用を検討

ベラルーシ国境からヴェンツピルス港までの石油パイプライン（2本，原油とディーゼル燃料）を所有する Lat Ros Trans 社（ラトビア・ロシア合弁）は，現在のラトビア部分のドゥルジュバ・パイプラインに天然ガス等石油・石油製品以外の輸送に活用できないかについて本年9月までに検討し，結論を出すこととなった。同パイプライン支線はラトビア南部からリトアニアの Orlen Lietuva 社（ポーランド系）が所有する石油精製施設（Mazeikiai 市）に通じており，様々な調整の必要性が指摘されている。同社は石油以外の輸送が可能な場合，東西に多くの潜在的な顧客が存在すると述べている。

◆観光分野におけるラトビアの国際競争力

15日，パブリュツ経済大臣は，世界経済フォーラムの「観光産業競争力年次報告書2013」の一項目において，ラトビアは国民が観光客を最も歓迎しない国の一つとされたことに対し反論した。同大臣は，ラトビア政府観光局が行った調査では，観光客の多くがラトビア人のホスピタリティを高く評価し，それがラトビアを観光訪問する理由であると回答していることを指摘した。なお，観光分野の総合競争力ではラトビアは世界140か国中，第48位とされた（エストニアは第30位，リトアニアは第49位，日本は第14位）。

◆乳飲料業界の再編が必要

22日，アブダルムスリモフス ABホールディング社（食品，木材，鉄鋼企業等を傘下に持つラトビアの企業グループ）代表は，現在ロシア資本が所有している国内乳飲料大手の Food Union 社が，近くフランス大手のダノン社に売却されるとの見通しを述べ，同社に対抗するためには，ラトビア国内乳飲料業界も企業再編を行う必要があると述べ，ABホールディング社がこうした取組を支援する考えを表明した。

【外交】

◆パブリュツ経済相のシンガポール訪問

6日～9日の間，パブリュツ経済相はシンガポールを訪問し，リム・フンキャン貿易産業相，シャンムガラトナム・シンガポール副首相兼財務相等とそれぞれ会談した。両国高官は二国間の経済関係について意見交換した。

◆国会がEUマリ訓練ミッションへの要員派遣を承認

7日，国会は，EUマリ訓練ミッション（EUTM Mali）にラトビア国軍の教官2名を派遣する政府決定を全会一致で承認した。ラトビア国軍筋によると，同訓練要員は4月上旬までにマリへ派遣される予定。

◆リンケービッチ外相のEU外務・総務理事会出席

11日、リンケービッチ外相はEU外務理事会及び総務理事会に出席し、外務理事会において、EUの対ロシア外交におけるEUとしての統一したポジション形成の必要性を指摘した。また、同外相は、日本・EU経済連携協定（日EU・EPA）締結に向けての交渉開始を支持した。

◆アーボルティニャ国会議長のルクセンブルク公式訪問

11日～13日の間、アーボルティニャ国会議長はルクセンブルクを公式訪問し、アンリ・ルクセンブルク大公、モザール国会議長等とそれぞれ会談した。アーボルティニャ国会議長は、ルクセンブルク高官に対し、ラトビアの優先政策課題としてOECD加盟及び2014年のユーロ導入を挙げ、両国のEU議長国（2015年上半期：ラトビア、同年下半年期：ルクセンブルク）に向け両国間の協力を提案した。

◆ラトビア外務省の北朝鮮非難声明

12日、ラトビア外務省は、北朝鮮が本年2月の北朝鮮による核実験に関する国連安保理決議（第2094号）の採択や米韓合同軍事演習に反発して、朝鮮戦争休戦協定の一方的な破棄を宣言し、先制核攻撃の権利等を主張している行動を強く非難する声明を発表し、同休戦協定及び核兵器不拡散条約の遵守を求めた。

◆ダライ・ラマ法王来訪の可能性と対中国関係

12日、在英ダライ・ラマ法王代表部の代表者が、ダライ・ラマのラトビア訪問準備のため来訪した。13日、ラトビア外務省報道官は、ラトビアは「一つの中国」の原則を尊重しており、チベット自治区は中国の一部であるとして、宗教上の指導者と見なされるダライ・ラマ法王がラトビアを訪問することになっても、ラトビア・中国関係に影響を与えることはないとする旨述べた。同法王の本年9月のラトビア訪問の可能性が伝えられている。

◆ベルズィンシュ大統領がウクライナを公式訪問

14日～15日の間、ベルズィンシュ大統領はウクライナを公式訪問（リンケービッチ外相、パブリュツ経済相、マティース運輸相、ボルダーンズ法相、ストラウユマ農業相等同行）し、ヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領、リバク・ウクライナ最高会議議長、アザーロフ・ウクライナ首相とそれぞれ会談し、EU・ウクライナ間の連合協定締結を含むウクライナのEU加盟へ向けた構造改革、ZUBR貨物輸送網（ベラルーシ・ウクライナ経由でのバルト海から黒海までの輸送網）等について意見交換を行った。また、ビジネス・フォーラムを開催したほか、黒海のオデッサ港を視察した。

◆リンケービッチ外相及びパブリクス国防相の「ブリュッセル会議」出席

15日～17日の間、リンケービッチ外相及びパブリクス国防相はブリュッセルを訪問し、ドイツ・マーシャル基金が主催した「ブリュッセル会議」に出席した。この会合の枠内で同外相はジュカノビッチ・モンテネグロ首相と会談し、モンテネグロのEU及びNATO加盟に支持を表明すると同時に、更なる構造改革の必要性を指摘した。

◆シルヴィア・スウェーデン王妃の来訪

20日、シルヴィア・スウェーデン王妃はラトビアを訪問し、Mentor Foundation（1994年に同王妃が設立した薬物乱用阻止を目的としたNGO）の年次会合に出席した。また、同王妃はベルズィンシュ大統領と会談し、2014年の欧州文化首都（ラトビアのリガ、スウェーデンのウメオの2都市）について意見交換した。

【日本との関係】

◆「世界女子カーリング選手権2013」の開催

16日～24日の間、リガ市内で「世界女子カーリング選手権2013」が開催され、日本代表（中部電力チーム）、ホスト国ラトビアを含む12か国で争われた結果、スコットランドが優勝、準優勝はスウェーデン、日本代表は予選成績5勝6敗の7位、ホスト国ラトビアは12位であった。本大会は2014年ソチ・オリンピック選考会を兼ねており、日本代表は残念ながら今大会では出場権を得ることが出来なかったものの、今後行われるオリンピック最終予選に望みをつないでいる。

◆日本語スピーチ・コンテストの開催

15日、ラトビア大学において、在ラトビア日本大使館とラトビアの主要日本語教育機関が共催する「第12回日本語スピーチ・コンテスト」が開催された。第1部（日本語学習時間300時間未満）に14名、第2部（日本語学習時間300時間以上）に6名が出場し、日頃の学習の成果を発表した。今回は首都リガからだけでなく、ピルテネ（西部クルゼメ地方）やダウガウピルス（南東部ラトガレ地方）など地方都市からの出場者もあった。

◆ラトビア・サッカーリーグの新シーズン開幕

29日、ラトビア・プロサッカー1部リーグ（ヴィルスリーグ）の新シーズンが開幕した。ヴィルスリーグはラトビア国内の10チームによるリーグ戦で、11月上旬までの1シーズン27節で争われる。ヴィルスリーグには、過去にも日本人選手の入団実績があるが、昨シーズンから引き続き在籍する武田英明選手（FCユールマラ）、熊田陽樹選手（イルークステツ）に加え、今シーズン新たに岡田翔太郎選手（スコント）、小

川圭佑選手（FCユールマラ）、川辺隆弥選手（FCユールマラ）、飯塚浩一郎選手（ダウガウピルス）の4名が新たに入団したことで、同リーグ所属の日本人選手は合計6名となった。

【その他】

◆漂流する氷盤に取り残された220人余りが全員救助

29日、リガ近郊の凍結した海面上で釣りを楽しんでいた多くの市民が、海岸から分離し、風に流された大きな氷盤上に取り残される事態となったが、警察、消防、国軍等の迅速な活動により、同日夕刻までに複数の漂流する氷盤から全員（223名）が無事に救助された。政府は、救助に要した費用の請求のほか、今後の再発防止策を検討している。

例年であれば3月末は既に海面凍結が解消されている時期であるが、今年のラトビアは春の訪れが遅く、3月中旬以降の20日間の平均気温は過去50年で最も低かった。

以上

2013年3月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日	マティース新運輸大臣就任	
2日		
3日		
4日	ユーロ導入に向けての収斂報告書要求を閣議決定	
5日		
6日		バブリュツ経済相シンガポール訪問（～9日）
7日		EUMari訓練ミッションへの要員派遣を国会承認
8日		
9日		
10日		
11日		アーボルティニャ国会議長ルクセンブルク訪問（～13日） リンケービッチ外相EU外務・総務理事会出席
12日		ラトビア外務省が北朝鮮非難声明発表
13日		
14日		ベルズィンシュ大統領ウクライナ訪問（～15日） ドンブロウスキス首相欧州理事会出席（～15日）
15日		リンケービッチ外相、パブリクス国防相「ブリュッセル会議」出席（～17日）
16日	ナチス・ドイツ軍所属ラトビア人部隊を称える非公式記念日、それに対する反ナチズム集会	
17日		
18日		
19日		ベルズィンシュ大統領バチカン訪問
20日		シルヴィア・スウェーデン王妃来訪
21日		
22日		
23日		
24日		
25日	ソ連によるシベリア追放から64年	
26日		
27日		
28日		
29日		
30日		
31日		

ラトビア主要経済指標

1ユーロ = 0.702804 ラツツ (ラトビア中銀レート)

GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	出典
名目GDP	百万ラツツ	16,085	13,070	12,784	14,275	15,520	中央統計局
国民一人当たりGDP	ラツツ	7,386	6,102	6,096	6,939	7,629	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 3.3	▲ 17.7	▲ 0.9	5.5	5.6	Eurostat

財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	出典
財政収支	百万ラツツ	▲ 682	▲ 1,277	▲ 1,040	▲ 489		中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.2	▲ 9.8	▲ 8.1	▲ 3.4		中央統計局
政府債務残高	百万ラツツ	3,182	4,803	5,695	6,028		中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.7	44.5	42.2		中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	出典
失業率	%	5.8	12.8	13.9	11.5	10.5	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4	2.3	中央統計局
平均賃金(グロス)	ラツツ	479	461	445	464	481	中央統計局
平均賃金(ネット)	ラツツ	350	342	316	330	343	中央統計局

海外直接投資(FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	出典
海外直接投資残高	百万ラツツ	5,711	5,673	5,752	6,578	7,038	中央銀行

貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	出典
輸出(FOB)	百万ラツツ	4,429	3,602	4,695	5,999	6,898	中央統計局
輸入(CIF)	百万ラツツ	7,528	4,710	5,912	7,719	8,698	中央統計局
貿易収支	百万ラツツ	▲ 3,099	▲ 1,108	▲ 1,217	▲ 1,720	▲ 1,800	中央統計局